

取組の柱③：多層的な連結性

事例③⑤：ポスト・コロナ時代におけるデジタル協力

1. 基本的な考え方

- 新型コロナの影響等により、社会情勢がこれまでと大きく変化している中、デジタル技術を活用して都市課題等を解決する「スマートシティ」は、今後世界的に成長が見込まれる分野であり、特に急速に都市化が進むASEAN各国では重点的に取組が進行中。
- データ流通とデータの安全・安心の両立を図るためにはDFFTが重要。2021年12月の所信表明において、岸田総理は、DFFTの実現に向けた国際的なルールづくり推進を表明。
⇒ASEANにおけるスマートシティ具体化に関与し地域・都市の実情に応じた活力ある成長実現に貢献するとともに、自由、公正かつ安全なサイバー空間の確保やDFFTを通じて、インド太平洋の平和と繁栄を確保。

2. 具体的な取組

- JASCAウェブサイトの活用、日ASEANスマートシティ・ネットワークハイレベル会合を通じた優良事例の紹介
- Smart JAMP（日ASEAN相互協力による海外スマートシティ支援策）における案件形成調査の実施
- 「ASEANスマートシティ・プランニング・ガイドブック」の活用
- デジタル田園都市国家構想とシンガポール・スマートネーション構想の連携に向けた協力（2022年12月、日・シンガポール・デジタル協力に関する専門家会合を実施）。
- 途上国のデータの流通及び利活用に関する法制度やデータ基盤整備等
- FOIP地域全体に渡るSociety5.0都市モデルの理想の追求
（例）都市モデルの国際標準化（ISO等）、FOIP都市コミュニティの形成による議論の喚起と相互連携メカニズム構築

■日ASEANスマートシティ・ネットワーク官民協議会（JASCA）

ASEANスマートシティ・ネットワーク（ASCN）※1への協力を目的に2019年に発足した協議会。
R4年12月時点：312会員



■日ASEANスマートシティ・ネットワークハイレベル会合

我が国のスマートシティの優良事例や本邦企業等の情報を効果的に発信し、ASEANにおけるスマートシティ実現に協力することを目的に2019年より毎年開催。



第4回ハイレベル会合
（共同議長とASEAN各国各都市代表者）

■Smart JAMP（日ASEAN相互協力による海外スマートシティ支援策）

ASEANのスマートシティ実現に向けた、我が国関係府省連携による支援策。「第2回日ASEANスマートシティ・ネットワーク・ハイレベル会合」において提案。

■ASEANスマートシティ・プランニング・ガイドブック

DFFT等のコンセプトを共有しつつASEANにおける都市課題の解決やスマートシティの実現を支援することを目的に、ASEAN事務局及びASCN加盟都市と連携してガイドブックを作成。



※1 ASEANスマートシティ・ネットワーク（ASCN）
2018年にシンガポールの提案により設立された、スマートシティ開発に向けた協力を目的としたASEAN内の枠組み。ASEAN加盟各国がモデル都市を3都市程度（10カ国26都市）選定し、スマートシティの取組を推進。